

東京都済生会中央病院で診療を受けられる皆様へ

東京都済生会中央病院(以下、当院)では、以下の臨床研究を実施しています。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の【お問い合わせ先】へご連絡下さい。

【研究の名称】

糖尿病合併 nab-PTX (アブラキサン[®]) 投与患者における末梢神経障害の発現状況調査

【研究機関及び研究責任者】

研究機関：東京都済生会中央病院 薬剤部

研究責任者：間宮 伸幸

【研究の目的】

アブラキサン[®]投与における末梢神経障害(しびれ感)の発現は、投与量の減量にも繋がる代表的な副作用の1つです。また、糖尿病においても末梢神経障害は代表的な合併症状として知られています。

しかし、糖尿病患者さんにアブラキサン[®]を投与した時の末梢神経障害の発現状況については、まだ詳細な報告はございません。

そこで今回、糖尿病の有無によってアブラキサン[®]投与における末梢神経障害発現の差について調査し、より良い治療につなげることを目的とします。

【研究の方法及び期間】

研究の方法：通常の診療で得られた記録をまとめることによって行います。

研究の期間：当院、臨床研究倫理審査委員会承認後から 2018 年 12 月 31 日まで

【研究対象者の選定について】

- ・対象となる患者さん
 - ・2015年6月1日から2017年11月19日までに、当院にてゲムシタビン＋アブラキサン療法の治療を受けた入院・外来患者さん
 - ・2013年8月1日から2017年11月19日までに、当院にてカルボプラチン＋アブラキサン療法の治療を受けた入院・外来患者さん

- ・利用する診療情報
年齢、性別、体重、体表面積、アブラキサン投与量・投与期間、アブラキサン併用抗がん薬（ゲムシタビン、カルボプラチン）の投与量、投与期間、癌および糖尿病治療歴、癌および糖尿病罹病期間、癌ステージ、レジメン投与歴、糖尿病罹患の有無、末梢神経障害発現状況、デキサメタゾン投与量、アプレピタント使用有無、糖尿病治療薬、臨床検査値（AST・ALT・Cr・Ccr・BUN・eGFR・HbA1c・BS・CRP・尿糖・尿ケトン）

【対象となる患者さんに生じる負担並びに予測されるリスク及び利益】

本研究は通常の診療で得られた記録をまとめることによって行われるため、患者さんへの負担、リスク及び利益は発生しないと考えます。

【個人情報の取り扱いについて】

利用する情報からは、お名前、住所など患者さんを直接同定出来る個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。また、ご自身のデータを研究に利用することを承諾されない方は以下の【問い合わせ先】にご連絡下さい。その場合も、診察上何ら不利な扱いを受けることはありません。

【本研究の実施について】

本研究は、当院の臨床研究倫理審査委員会による審査の上、病院長による承認を得て実施しております。

【問い合わせ先】

東京都港区三田 1-4-17
東京都済生会中央病院 薬剤部
担当 間宮 伸幸
電話 03-3451-8211